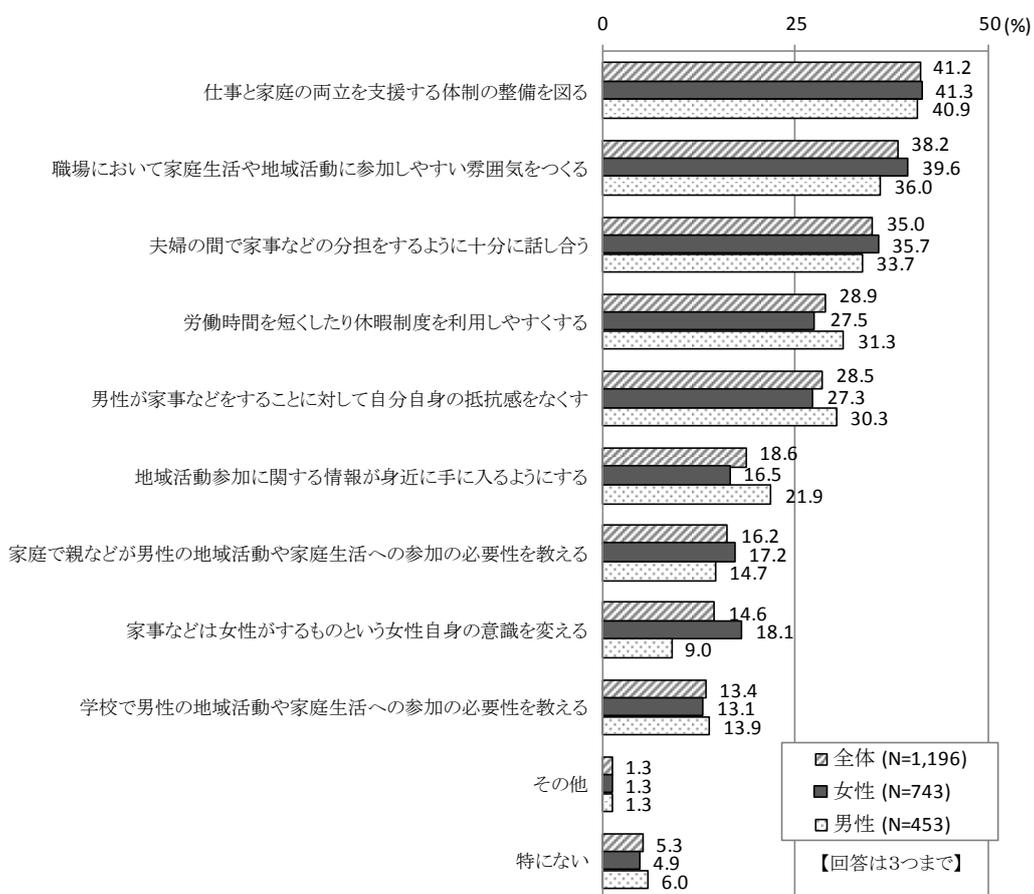


## 第6章 社会活動などへの参加・参画について

### 1. 男性の地域活動、家庭生活への参加のために必要なこと

問 13. 男性が女性とともに地域活動（自治会・校区コミュニティ組織の活動や子ども会・ボランティア活動など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

図 男性の地域活動、家庭生活への参加のために必要なこと[全体、性別]



男性が女性とともに地域活動や家庭生活に参加するために必要であると思うことについてたずねた。

「仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」（41.2%）、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」（38.2%）、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」（35.0%）などが上位にあげられている。

性別にみると、男女差が大きいものは「家事などは女性がするものという女性自身の意識を変える」で女性の方が9.1ポイント高く、男性は「地域活動に関する情報が身近に手に入るようにする」が5.4ポイント女性よりも高くなっている。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、男女とも年齢が低い層では「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」「労働時間を短くしたり休暇制度を利用しやすくする」の割合が高く、また女性では「仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」の割合も高くなっている。子育て世代では仕事と関連する項目が高く、男性の地域活動、家庭生活への参加には労働条件の影響が大きいことが示唆される。年齢が高い層では男性は「男性が家事などをするに対して自分自身の抵抗感をなくす」、女性では「家事などは女性がするものという女性自身の意識を変える」の割合が高く、自身の抵抗感をなくすことが必要だと感じる人が多い。また、男女とも60歳代では「地域活動参加に関する情報が身近に入るようにする」の割合が他の年代に比べて高く、定年退職後の世代では情報が身近に入ることができることも必要と考えられている。

表 男性の地域活動、家庭生活への参加のために必要なこと[全体、年齢別]

(%)

		合計	男性が家事などの抵抗感をなくす対	う家事などは女性がするものとい	地域活動参加に関する情報	や家庭で親などが男性の地域活動	活への参加の必要性を教える	学校での参加の必要性を教える	夫婦の間に家事などの分担をす	るように十分に話し合う	労働時間を短くしたり休暇制度	を利用しやすくする	職場において家庭生活や地域活	動に参加しやすい雰囲気をつくる	制の整備を図る	仕事と家庭の両立を支援する体	その他	特にな	無回答
全体		1,196 100.0	340 28.5	175 14.6	222 18.6	194 16.2	161 13.4	418 35.0	346 28.9	457 38.2	492 41.2	15 1.3	64 5.3	43 3.6					
年齢別	女性:20歳代	61	26.2	11.0	14.3	9.4	9.5	45.3	41.3	51.6	43.6	2.4	4.8	-					
	女性:30歳代	99	19.0	17.0	17.6	16.1	10.7	30.7	40.6	51.2	51.2	1.5	4.4	1.0					
	女性:40歳代	140	30.3	9.6	10.6	19.6	12.4	30.0	41.0	45.6	44.2	2.4	4.2	1.4					
	女性:50歳代	133	25.7	14.5	16.6	20.7	14.5	36.3	25.4	38.8	47.1	1.4	6.2	2.2					
	女性:60歳代	184	28.3	24.8	21.5	15.5	17.8	38.7	17.5	36.6	37.2	0.5	5.0	4.7					
	女性:70歳以上	124	31.4	25.2	15.5	17.4	8.6	36.4	12.8	23.2	29.9	0.4	5.0	14.0					
	男性:20歳代	30	25.8	-	16.2	17.7	11.3	41.9	45.2	53.2	35.4	4.8	1.6	-					
	男性:30歳代	54	13.4	2.6	19.6	10.8	17.0	29.5	43.7	37.5	35.6	2.7	12.5	-					
	男性:40歳代	77	26.1	7.5	12.4	13.7	8.7	31.1	47.2	60.3	42.9	-	3.7	0.6					
	男性:50歳代	93	27.8	5.6	17.0	12.9	18.6	27.8	38.7	40.3	46.4	1.0	10.3	1.0					
	男性:60歳代	125	37.7	13.8	31.1	11.5	12.3	36.6	21.2	24.7	45.3	1.5	1.2	4.2					
男性:70歳以上	71	40.8	15.6	26.0	25.8	15.6	40.1	7.5	16.3	31.4	-	6.8	6.1						
無回答		5	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-	20.0	-					

## 2. 地域活動での男女の役割分担

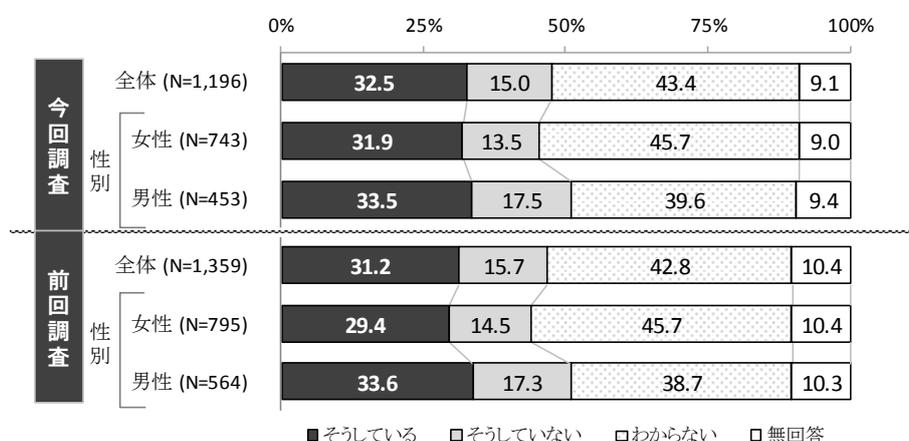
問 14. 地域活動（自治会・校区コミュニティ組織の活動や子ども会・ボランティア活動など）での男女の役割分担についておたずねします。

(1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について（ア）から（ク）のそれぞれについてあてはまるものを1つずつ選び番号に○印をつけてください。

(2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。（ア）から（ク）のそれぞれについてあてはまるものを1つずつ選び番号に○印をつけてください。

## (ア) 催し物の企画などは主に男性が決定している

図 催し物の企画などは主に男性が決定している《現状》[全体、性別] (前回調査比較)



地域活動での男女の役割分担の現状と意識をたずねた。地域活動に参加していない人が多いためか、全項目にわたって「わからない」が2割以上ある。

催し物の企画などは主に男性が決定していることについて、「そうしている」が32.5%、「そうしていない」が15.0%と男性が決定している場合の方が約2倍となっている。

性別にみると、「そうしている」、「そうしていない」とも男性の方がやや高く、「わからない」（女性45.7%、男性39.6%）は女性が6.1ポイント高く、女性は地域の催し物の企画決定がどのようになされているかを知らない場合が多いようだ。

前回調査と比較すると、男女とも大きな変化はみられない。

今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」場合には、「改善すべき」が53.1%と最も高く、「現状のままでいい」は33.2%である。半数以上は地域の催し物の企画決定を男性がすることを改善すべきとしている。

## II 調査結果の分析

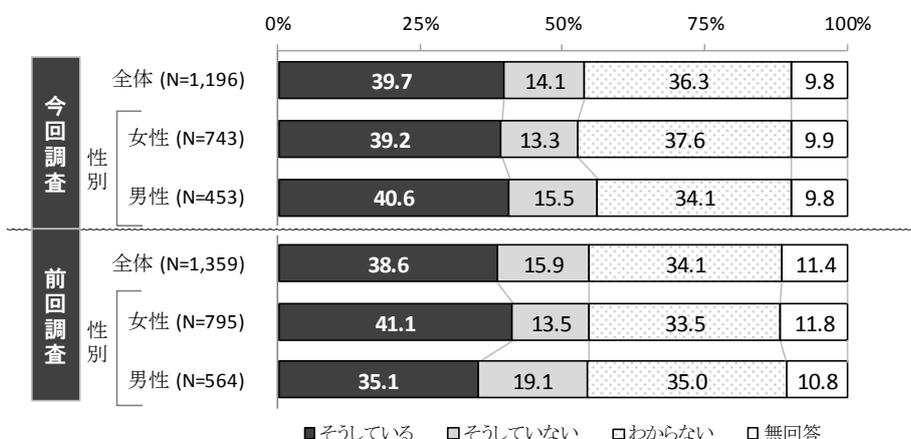
表 催し物の企画などは主に男性が決定している「意識」[全体、現状別]

(%)

			合 計	【意識】			
				(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している			
				で現 状の まま	改 善 す べき	わ か ら ない	無 回 答
全体			1,196 100.0	263 22.0	350 29.3	427 35.7	155 13.0
【 現 状 】	(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している	そうしている	389	33.2	53.1	8.3	5.4
		そうしていない	179	59.9	20.4	13.2	6.5
		わからない	519	4.7	20.3	71.4	3.5
		無回答	109	1.8	1.8	0.9	95.6

(イ) 地域活動は男性が取り仕切る

図 地域活動は男性が取り仕切る《現状》[全体、性別](前回調査比較)



地域活動を男性が取り仕切ることについて、「そうしている」が39.7%と高く、「そうしていない」は14.1%である。

性別にみると、「そうしている」、「そうしていない」とも男性の方がやや高く、「わからない」(女性37.6%、男性34.1%)は女性の方がやや高い。

前回調査と比較すると、女性ではあまり大きな変化はないが、男性では「そうしている」が5.5ポイント増えており、男性自身の認識が高くなっている。

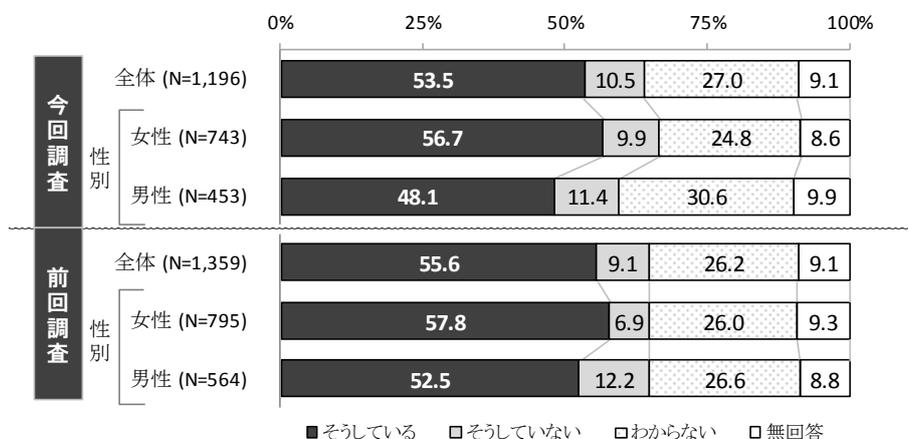
今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」場合には「改善すべき」が54.0%と最も高く、「現状のままでいい」は33.8%である。半数以上は地域活動を男性が取り仕切るということに問題を感じている。

表 地域活動は男性が取り仕切る《意識》[全体、現状別]

			【意識】				
			(イ) 地域活動は男性が取り仕切る				
			合計	で現状のままで	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,196	282	366	391	158
			100.0	23.6	30.6	32.7	13.2
【現状】	(イ) 地域活動は男性が取り仕切る	そうしている	475	33.8	54.0	8.0	4.1
		そうしていない	169	58.4	23.7	12.5	5.4
		わからない	434	5.0	15.2	76.3	3.5
		無回答	118	0.4	2.5	0.4	96.7

(ウ) 地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている

図 地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている《現状》[全体、性別](前回調査比較)



地域での集会の時には女性がお茶くみや後片づけをしているかについて、「そうしている」と回答したのは 53.5%と全項目の中で最も高く、「そうしていない」は 10.5%と低い。「わからない」も 27.0%で全項目の中で最も低い。お茶くみや後片づけは実際に女性の仕事となっている場合が多いだけでなく、そう認識している人も多いといえる。

性別にみると、「そうしている」(女性 56.7%、男性 48.1%) は女性が男性を 8.6 ポイント上回っており、女性の方がお茶くみや後片づけが女性の役割になっていると認識している割合が高い。

前回調査と比較すると、女性ではあまり大きな変化はなく現状認識は変わらないが、男性では「そうしている」が 4.4 ポイント減少し、その分「わからない」が増えている。

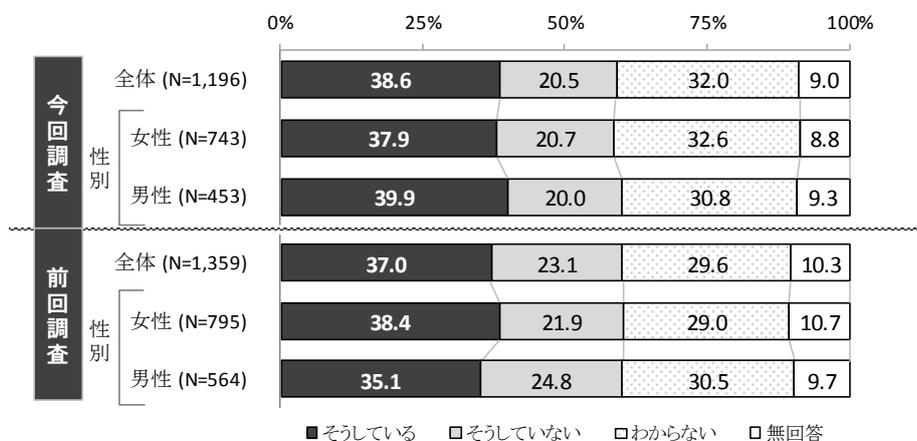
今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」場合「改善すべき」が 55.7%と半数以上は女性がお茶くみや後片づけすることが問題と感じているが、「現状のままでいい」も 31.0%となっている。「そうしていない」場合は「現状のままでいい」が 70.3%と高率である。

表 地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている《意識》[全体、現状別]

			【意識】				
			(ウ) 地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている				
		合計	割合 (%)				
			で現状のまま	改善すべき	わからない	無回答	
全体			1,196	307	426	319	144
			100.0	25.7	35.6	26.6	12.0
【現状】	(ウ) 地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている	そうしている	639	31.0	55.7	9.8	3.5
		そうしていない	125	70.3	18.9	6.5	4.3
		わからない	323	5.2	13.7	76.2	4.8
		無回答	109	4.0	1.8	1.8	92.5

(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている

図 地域の役員はほとんど男性になっている《現状》[全体、性別](前回調査比較)



地域の役員はほとんど男性になっているかについて「そうしている」は38.6%、「そうしていない」は20.5%で、現状では地域の役員は男性が多いという結果である。

性別にみても男女の認識に差はあまりみられない。

前回調査と比較すると、女性ではあまり変化はないが、男性で「そうしている」が4.8ポイント増えており、地域の役員はほとんど男性になっていると認識している人が増えているようだ。

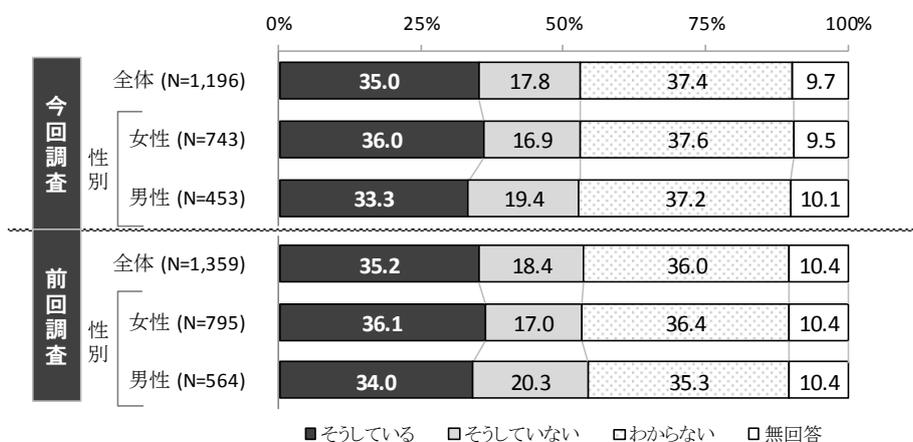
今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」人のうち、約6割が「改善すべき」(59.5%)と考えている。

表 地域の役員はほとんど男性になっている《意識》[全体、現状別]

			【意識】			
			(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている			
			合計	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,196	299	382	148
			100.0	25.0	31.9	12.4
【現状】	(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている	そうしている	462	27.0	59.5	9.6
		そうしていない	245	64.7	19.7	10.0
		わからない	382	3.5	15.3	77.7
		無回答	107	1.8	0.5	1.8

(オ) 地域での集會では男性が上座に座る

図 地域での集會では男性が上座に座る《現状》[全体、性別](前回調査比較)



地域での集會では男性が上座に座ることについて「そうしている」は35.0%で、「そうしていない」は17.8%となっている。

性別にみると、「そうしている」(女性36.0%、男性33.3%)と「そうしていない」(女性16.9%、男性19.4%)では、男女で大きな差はみられない。

前回調査と比較しても男女ともあまり大きな変化はみられない。

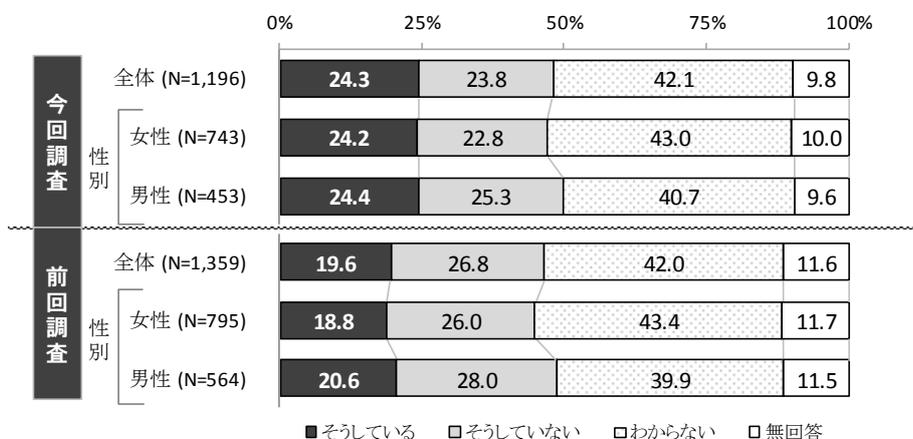
今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」場合56.7%が「改善すべき」としている。「そうしていない」場合、「現状のままでいい」が70.4%と高率である。

表 地域での集會では男性が上座に座る《意識》[全体、現状別]

		合計	【意識】			
			(オ) 地域での集會では男性が上座に座る			
			で現 い状 の ま ま	改 善 す べ き	わ か ら な い	無 回 答
全体		1,196	282	334	426	154
		100.0	23.6	28.0	35.6	12.9
【 現 状 】	そうしている	418	27.4	56.7	12.3	3.6
	(オ) 地域での集會で そうしていない は男性が上座に座る	213	70.4	12.7	9.7	7.2
	わからない	448	3.8	14.8	78.4	3.1
	無回答	116	-	3.3	2.1	94.6

(カ) 女性の発言が少ない

図 女性の発言が少ない<<現状>>[全体、性別](前回調査比較)



女性の発言が少ないことについて、他の項目と比べると「そうしている」(24.3%)割合は低く、「そうしていない」(23.8%)と同程度となっている。地域活動において女性の発言は少なくないようである。ただし「わからない」は42.1%と高めで、女性の発言が少ないか多いかの判断はつけにくいといえる。

性別にみると、「そうしている」は男女とも同程度であるが、男性は「そうしていない」、女性は「わからない」がやや多く、男性において女性は発言しているという認識がやや高くなっている。前回調査と比較しても男女ともあまり大きな変化はみられない。

今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」場合「改善すべき」が83.6%と全項目中で最も高くなっている。女性の発言が少ないと認識している人では、地域活動の場で女性の発言を増やすべきと考える傾向が強くなっている。

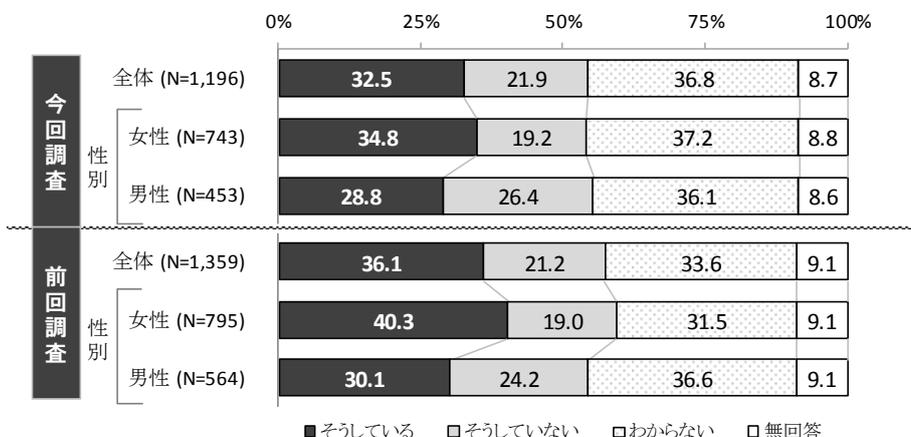
表 女性の発言が少ない<<意識>>[全体、現状別]

		合計	【意識】			
			(カ) 女性の発言が少ない			
			で現 い状 いの まま	改 善 す べき	わ か ら ない	無 回 答
全体		1,196 100.0	220 18.4	416 34.8	404 33.8	156 13.1
【 現 状 】	そうしている	291	7.4	83.6	5.0	4.0
	(カ) 女性の発言が少 ない	284	65.4	21.9	7.1	5.6
	そうしていない	504	2.4	20.8	72.8	3.9
	わからない	118	-	4.9	2.4	92.6

(キ) 自治委員(隣組長)などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出ることが多い

図 自治委員(隣組長)などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出ることが多い

《現状》[全体、性別](前回調査比較)



自治委員・隣組長などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出るが多いことについて「そうしている」は32.5%、「そうしていない」は21.9%である。

性別にみると、「そうしている」(女性34.8%、男性28.8%)で女性が6ポイント高く、また「そうしていない」(同19.2%、26.4%)では男性が7.2ポイント高くなっており、男女の認識にずれがあることがわかる。女性の方に男性の代役で出席しているという認識が高い。

前回調査と比較すると、「そうしていない」は男女ともほとんど変わらず、「そうしている」は女性が40.3%から34.8%と5.5ポイント減少しており、男女の認識の違いはやや小さくなっている。

今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」の67.8%が「改善すべき」と考えており、全項目中3位で、現状に問題を感じている人は多いようである。

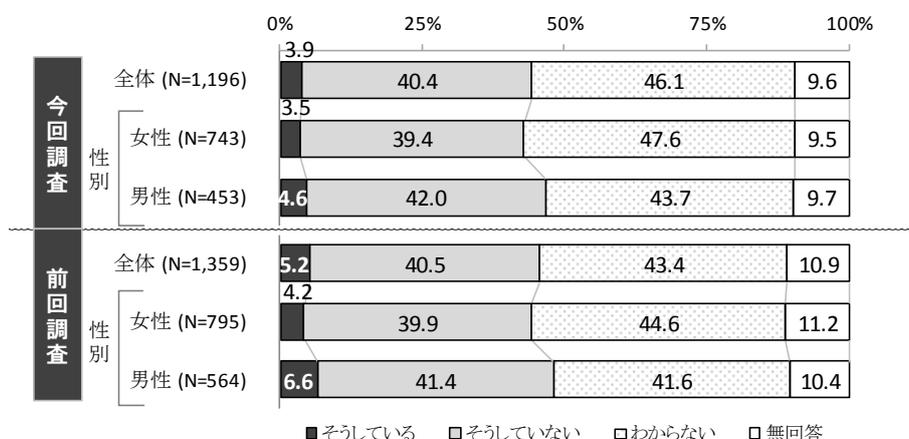
表 自治委員(隣組長)などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出るが多い

《意識》[全体、現状別]

			【意識】				
			(キ)自治委員(隣組長)などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出るが多い				
		合計	割合 (%)				
			で現状のまま	改善すべき	わからない	無回答	
全体			1,196	244	395	411	146
			100.0	20.4	33.0	34.4	12.2
【現状】	(キ)自治委員(隣組長)などの登録は男性(夫)だが、会議の出席は女性(妻)が出るが多い	そうしている	389	16.1	67.8	10.4	5.7
		そうしていない	262	64.8	21.5	10.2	3.5
		わからない	440	2.5	16.3	77.7	3.5
		無回答	105	-	2.7	2.3	95.0

(ク) 同じ作業に参加しても女性には出不足金がある

図 同じ作業に参加しても女性には出不足金がある<<現状>>[全体、性別](前回調査比較)



同じ作業に参加しても女性には出不足金があるかについて「そうしていない」が40.4%を占めている。また「わからない」が46.1%と高く、この慣行は広範に行われているものではないが、「そうしている」は3.9%で、この慣行がまだ残っているところがあることがわかる。

前回調査と比較すると、「わからない」が男女ともやや増加しており、出不足金の慣行について認知していない人が増えている。

今後どうすべきかを現状別にみると、「そうしている」の72.1%は「改善すべき」と考えているが、一方で「現状のままでいい」は14.5%と数値としては高くないが、たとえ少数であってもこうした慣行を肯定的にとらえている人が存在することについては、今後の取り組みが必要と考えられる。

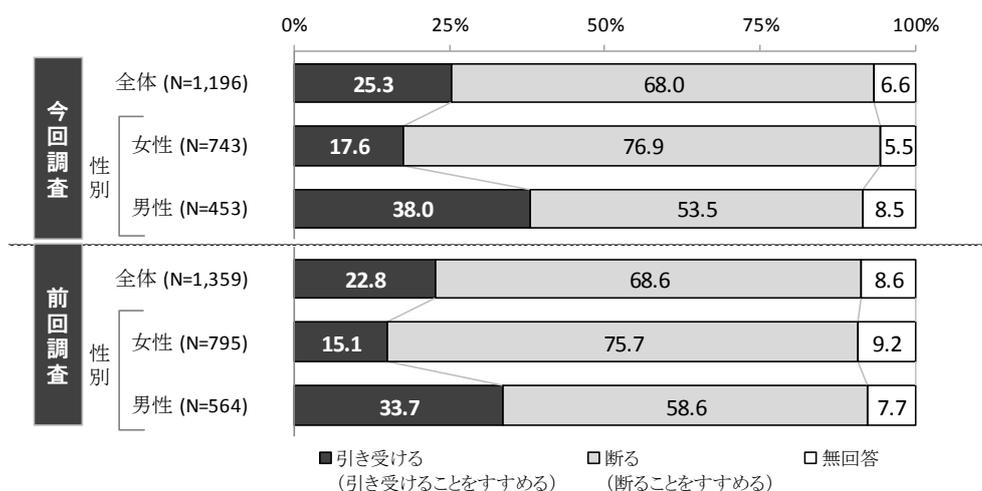
表 同じ作業に参加しても女性には出不足金がある<<意識>>[全体、現状別]

		【意識】				(%)
		合計	(ク) 同じ作業に参加しても女性には出不足金がある			
			で現状のまま	改善すべき	わからない	無回答
全体		1,196	338	213	486	159
		100.0	28.2	17.8	40.6	13.3
【現状】	そうしている	47	14.5	72.1	5.1	8.2
	(ク) 同じ作業に参加しても女性には出不足金がある	483	66.4	18.1	9.5	6.0
	そうしていない	552	1.7	16.2	78.9	3.2
	わからない	115	1.3	2.1	2.1	94.5

### 3. 女性が地域の役職につくことについて

問 15. 自治会長や校区コミュニティ組織の会長、PTA会長などの地域の役職についておたずねします。女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻などの身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図 女性が地域の役職につくことについて[全体、性別](前回調査比較)



女性が地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるか、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねた。さらに、「断る (ことをすすめる)」と答えた場合には、その理由をたずねた。

全体では、「断る (ことをすすめる)」が 68.0%、「引き受ける (ことをすすめる)」は 25.3%で「断る (ことをすすめる)」が圧倒的に高い。

性別にみると、「断る (ことをすすめる)」は女性で 76.9%、男性では 53.5%と、女性の方が「断る」割合が高い。「引き受ける (ことをすすめる)」は女性で 17.6%、男性では 38.0%で、男性の割合が高い。男性に比べて女性の消極的な態度が目立つが、自分自身が引き受けることを考えると慎重に考えざるを得ないのではないだろうか。

前回調査と比較すると、男性では「断ることをすすめる」が 5.1 ポイント減少し、「引き受けることをすすめる」が 4.3 ポイント増加しており、女性が役職につくことについては積極的となっている。女性では「断る」の割合に変化はあまりないが、「引き受ける」は 2.5 ポイントとわずかではあるが増えている。女性において消極的な姿勢はやや弱まってきているようである。

年齢別にみると、女性の60歳代で「引き受ける」が24.1%と最も高くなっている。50歳代以下では「断る」が8割以上と高くなっている。「引き受けることをすすめる」が男性の70歳以上では52.4%と半数以上を占めて他の年代より高い。男性の70歳以上は、家庭の役割分担で地域活動の『夫中心』が最も高かったことを考え合わせると、地域活動に参画している高齢者層の男性では妻が役員になることに積極的であるといえる。40歳代では27.4%と男性の中で最も低い割合となっている。男性の40歳代は他の年代より、妻にしてほしい役割が「生活費を得る」が最も高く「地域活動」が最も低かったことから、妻の就労を望んでいる場合には妻が地域活動の役員になることに消極的になることが考えられる。

表 女性が地域の役職につくことについて[全体、年齢別]

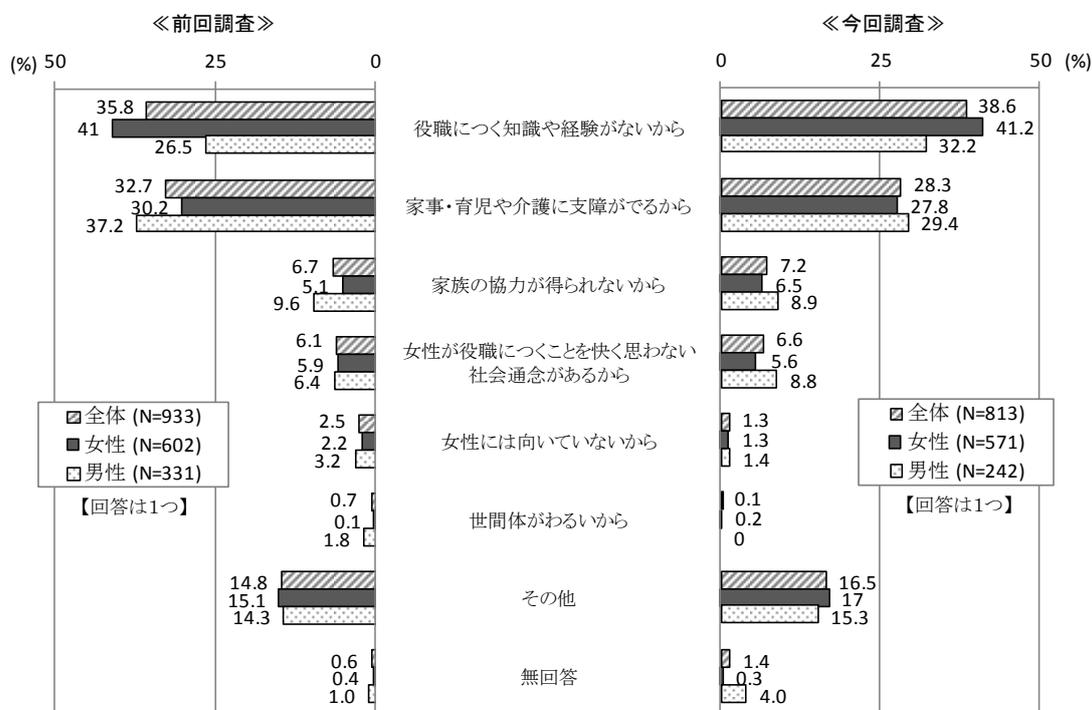
(%)

		合 計	と（引 き受 け るこ とを 引 き 受 け るこ とを す す め るこ と）	を 断 る （ 断 る こ と を す す め るこ と）	無 回 答
全体		1,196 100.0	303 25.3	813 68.0	79 6.6
年 齢 別	女性:20歳代	61	12.7	83.4	3.9
	女性:30歳代	99	12.1	85.9	2.0
	女性:40歳代	140	16.2	83.1	0.7
	女性:50歳代	133	16.7	80.8	2.6
	女性:60歳代	184	24.1	68.5	7.3
	女性:70歳以上	124	17.8	67.1	15.1
	男性:20歳代	30	45.1	45.3	9.7
	男性:30歳代	54	34.0	56.3	9.8
	男性:40歳代	77	27.4	67.7	4.9
	男性:50歳代	93	34.0	58.7	7.2
	男性:60歳代	125	38.4	50.8	10.8
	男性:70歳以上	71	52.4	38.7	8.8
	無回答	5	40.0	60.0	-

付問1. [問15で2.「断る(断ることをすすめる)」と答えた方に]

その理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図 断る(断ることをすすめる)理由[全体、性別](前回調査比較)



「断る(断ることをすすめる)」理由は「役職につく知識や経験がないから」(38.6%)が最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」が28.3%とこの2つが主な理由としてあげられている。「家族の協力が得られないから」「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」は1割以下で低い。

性別にみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は男女であまり差はないが、「役職につく知識や経験がないから」(女性41.2%、男性32.2%)は女性が男性を9ポイント上回っている。女性は家庭での自身の役割とのバランスとともに知識や経験不足で気後れしている様子が見えがえる。

前回調査と比較すると、女性では大きな変化はあまりみられず、男性で「家事・育児や介護に支障がでるから」が7.8ポイント減少し、「役職につく知識や経験がないから」が5.7ポイント増加している。女性の家庭での役割よりも女性の知識や経験不足を課題と考える男性が増えている。

年齢別にみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は30歳代で女性は51.2%、男性は61.9%と目立って高く、子どもに手のかかる年代では男女とも女性の家庭責任が課題と考える傾向が見えがえる。「役職につく知識や経験がないから」は、女性の50歳代と60歳代で全体平均を超えており、男性は年齢が高くなるほど割合が高くなっている。役職につく年代である当事者の女性は知識や経験不足を課題としている。男性は、年齢が低い層の方が女性の知識や経験が不足しているとは考えない傾向が見えがえる。「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」は女性では70歳以上の高齢者層で高い。「家族の協力が得られないから」は女性では40歳代で高く、男

性では60歳代、70歳以上で高い。男性の場合は家族とは多くの場合は夫、すなわち自分を指すことから高齢者層の男性では、自分が協力できないと考えている人が多いといえる。

表 断る(断ることをすすめる)理由[全体、年齢別]

(%)

		合計	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体が変わるいから	その他	無回答
全体		813 100.0	59 7.2	53 6.6	230 28.3	314 38.6	11 1.3	1 0.1	134 16.5	12 1.4
年齢別	女性:20歳代	51	3.8	7.6	37.1	32.4	1.0	-	18.1	-
	女性:30歳代	85	1.7	1.7	51.2	23.9	-	-	21.6	-
	女性:40歳代	116	12.0	3.7	37.3	23.3	1.7	-	21.6	0.4
	女性:50歳代	107	6.7	2.7	22.4	51.1	1.8	0.9	14.3	-
	女性:60歳代	126	4.9	7.2	11.9	66.1	0.8	-	9.1	-
	女性:70歳以上	83	7.5	12.7	17.3	39.3	2.3	-	19.1	1.7
	男性:20歳代	13	17.7	3.6	28.7	3.6	-	-	46.5	-
	男性:30歳代	30	1.5	11.2	61.9	7.9	-	-	17.5	-
	男性:40歳代	52	8.2	4.6	38.5	29.4	5.5	-	13.8	-
	男性:50歳代	55	7.0	14.1	23.7	34.2	0.9	-	16.7	3.5
男性:60歳代	64	10.6	11.4	22.8	43.2	-	-	5.3	6.8	
男性:70歳以上	27	14.0	-	3.5	49.1	-	-	21.1	12.3	
無回答		3	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-

